



### レベル3 息継ぎなしで都道府県を暗唱できる

レベル2の発展形である。きちんとすらすら読むことで暗唱を推進する（子どもの頭の中ではスラスラ読むことに目的が置かれる）。息を吸ってから、頭の中に該当都道府県を思い浮かべ早く読んでいくのがコツである。

※あくまでもここからは、レベル2の発展形となる。

レベル2がきちんとできれば、レベル3に入るともたやすくなる。レベル3でつまづきをなくすためにも、レベル2を徹底して暗唱させることが大切である。

### レベル4 高速読み

一つレベルを上げ、高速で読めるようにする。地方ごとに、制限時間を設定する。教師はストップウォッチを持って、制限時間内に読めているか確認する。ここでも読むことが主眼になっているので、読むうちに暗唱を推進できるようになっている。ここまでは、暗唱ができていう前提があるので子どもたちは熱中して取り組める。宿題で音読させることと絡めて、クラスの中で高速読みの動きを作り出したい。

※以上ここまでは、子どもたちが必ず正しい都道府県を指さしているかを確認する。

### レベル5 ランダム読み

教師がある一つの「都道府県」を指さす。子どもがすぐにいえたら合格である。地方ごとが原則であるが、すべてできた子どもには、全国の都道府県を視野に入れて出題をすとよい。以上3・4年生からの実践導入をしておくとして5年生・6年生の学習に十分に活用できる。

以上の「読み実践」は、先進の子どもを作ることが成功の一つのコツである。また、学級全体で読みに取り組ませる活動も取り入れると、苦手な子どももすんなりと活動に入っていけるであろう。

## 都道府県名物句を作ろう。 (5年生での導入)

小学校新学習指導要領において、5年生の学習内容について次の文言がある。

国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えることができるようにする。

ここでは、「生活や産業との密接な関連」に迫ることが必要である。授業の実際を記す。

### ステップ1 県の名物について、調査する

各都道府県には、名物がある。都道府県別のデータを調査すると、それは容易に見えてくる。

調べ学習の一環として、この調査を扱うと面白い。句を作ることを目標に、都道府県の名物を見つけていく作業は、子どもたちにとって、目的意識をもって学習できる利点がある。

### ステップ2 句を作る

次に、たとえば、青森県の名物をつかって、5・7・5の句を作らせる。

「りんごうまし ねぶた祭りの 青森県」  
などである。できたら板書させる。

### ステップ3 気に入った句の投票

重要度を考えさせて、気に入った句に投票させる。

板書された文に番号を振り、子どもに選択させる。一番人気のあったものをクラスの句とする。

### ステップ4 他の県にも取り組む

他の県にも取り組ませる。基本的には、

- ①名物を知る。(箇条書き)
- ②句を作る。(重要度の選択)
- ③投票する。(全体としての重要度の選択)

の流れを踏む。

学級の実態に応じ、流れは、様々考えられる。個人、グループ、全員で話し合うなどの方法が考えられる。が、なるべく、学級全員を作業に加わせたい。

### ステップ5 暗唱する

以上47都道府県の句が作れたら暗唱に入る。暗唱をする前提として、「多く読む」ことは必須である。「多読」を通過することなしに、「暗唱」は無理である。多く読む(100回読み)到達者を増やす。その後、暗唱テストをする。